

# 女性の力活かす経営を実践

## 柔軟な働き方めざし環境整備



①寄せ植えの花鉢と村上さん夫妻、  
②小学校で授業する力さん

【広島】花壇苗生産の株式会社ジョーシア園芸(尾道市因島は、令和7(2025)年度農山漁村女性活躍表彰の女性活躍応援 次世代育成支援部門で最優秀賞(農林水産大臣賞を受賞した。同社では代表取締役の村上力さんと妻で専務取締役の理衣さんほか従業員26人が、ハウス60棟で年間160万鉢以上を広島・岡山に店舗をもつホームセンターなどに出荷している。野菜苗を栽培していた父親から農園を継承後、主力を花壇苗に転換しハウス面積・販路・雇用の拡大を進め22年に法人化した。

人材育成が経営発展の重点と考え、会社の経営方針を従業員と共有。女性従業員をリーダーとして栽培管理を任せるなど、個々の能力に応じた職務体制づくりと子育て世代従業員が柔軟な働き方を選択できる環境整備に取り組んできた。理衣さんは花の楽しみ方を広めようと、根のついた植物を花束のように組み合わせて寄せ植えする技法

### 広島・尾道市 ジョーシア園芸

「ギャザリング」の寄せ植え教室を園内の施設や福山市内で開催。華やかで日持ちする寄せ植えを消費者に提案している。

村上さん夫妻は「女性がライフスタイルに応じて安心して長く勤めることのできる活気ある農園として地域の皆さんと共に成長していきたい。今回の受賞は従業員にとっても励みになる」と受賞の喜びを語った。同社を訪れた日、力さんは農園近くの小学校での寄せ植えプランター作りの授業に向かい、児童たちに花を育てる楽しさを伝えていた。



【愛知】豊橋市、蒲郡市、田原市では、農地や園芸施設の遊休化を抑制し有効利用するため、「未来の農地マップ」の運用を2月から開始した。未来の農地マップは、地域計画策定時などに把握した地権者からの貸したい・売りたいの意向が

### 未来の農地マップが運用開始

【愛知】豊橋市、蒲郡市、田原市では、農地や園芸施設の遊休化を抑制し有効利用するため、「未来の農地マップ」の運用を2月から開始した。未来の農地マップは、地域計画策定時などに把握した地権者からの貸したい・売りたいの意向が

## 「なばなで春を感じて」

### 最高のものと思い込めて栽培



福岡・行橋市 金丸さん夫妻

### 愛知 豊橋市、蒲郡市、田原市

【福岡】春の訪れを感じさせる野菜「なばな」。行橋市の特産品で、ビタミン、ミネラル、食物繊維などの栄養素を豊富に含む。特にビタミンCの含有量は野菜の中でもトップクラスを誇る。

栽培歴23年の金丸享司さんは「ほんのりとした甘みとほろ苦さがあり、シャキシャキとした食感が特徴」と魅力を語る。妻の隆子さんも「おひたしやごまあえ、炒め物などどんな料理にも合う野菜」と太鼓判を押す。

「最高のものを届けた」という金丸さん夫妻は「写真」の思いが詰まった「なばな」。毎年工夫を重ね、極力農薬を使用せず、食べてくれる人の顔を思い浮かべながら育てているという。

県内のみならず東京に

## 体験通し感動届ける

### 小学生の習い事に農業を



大阪・豊能町 川勝未来さん

【大阪】「農業を通じて命の大切さや自分の手で育てて食べる感動を伝えたい」と話すのは、豊能町の農地約30アールでオクラや色とりどりのダイコンなど少量多品目の野菜を生産する「Yayoya m」代表の川勝未来さん(32)だ。

野菜や同町の素材を活用した米粉のベジチュロスなどの加工品を、キッチンカーやオンラインショップで販売している。また、子ども向けの農業体験「アグリツアー」や、農業に関心のある者向けに実習でノウハウを共有しながら共同で商品開発まで行う「畑のこうこう」に取り組んでいる。

## 農山村と都市をつなげる「1杯に

### 鳥取・日南町



【鳥取】農山村の価値や魅力を多くの人に届けたいとの思いから、日南町で新たなコーヒー「つながるブレンド」が誕生した。写真。

神戸市で100年続く老舗の萩原珈琲が手がけ、日本最古とされる炭火焙煎の技術で丁寧に仕上げている。豊かな森林に囲まれた同町の風土や暮らしに着想を得ており、香りや味わいとともに農山村の物語を感じられる商品となっている。

焙煎に用いる木炭は全国唯一の町営林業アカデミーで学生が授業の一環として生産したものを活用

### コーヒー「つながるブレンド」誕生

【鳥取】農山村の価値や魅力を多くの人に届けたいとの思いから、日南町で新たなコーヒー「つながるブレンド」が誕生した。写真。

神戸市で100年続く老舗の萩原珈琲が手がけ、日本最古とされる炭火焙煎の技術で丁寧に仕上げている。豊かな森林に囲まれた同町の風土や暮らしに着想を得ており、香りや味わいとともに農山村の物語を感じられる商品となっている。

焙煎に用いる木炭は全国唯一の町営林業アカデミーで学生が授業の一環として生産したものを活用

しており、資源循環の学びにもつながっている。人口減少や担い手不足が進む中、都市と農山村を結び、関係人口の創出につながる試みとして注目されている。

売り上げの一部は企業版ふるさと納税として同町に還元され、林業従事者の育成に活用する仕組みも構築している。日常の中の1杯で遠く離れた農山村の未来を支えることが期待されている。

つながるブレンドは道の駅にちなみ日野川の郷隣接のショップ「まるごとま」と萩原珈琲のオンラインサイトから購入できる。

(日南町まち未来創造課・荒金太郎主幹)



未来の農地マップ二次マップ二次元コード

### 先端技術の植物工場を視察

【宮崎】みやぎ農業委員会女性ネットワーキング(後藤ミホ会長)は3月5日、千葉大学の葉野千代子(葉野千代子)の同植物工場視察研修を行った。写真。

敷地内には太陽光型6棟と人工光型4棟の植物工場に加え、関連施設が設置されており、異なる企業が運営する各施設では、それぞれ多様な技術と方法を用い、人と環境にやさしいサイエンス農業の研究・実証が行われている。

水は雨水を循環して使用し、機械制御により一定の品質を保つことが可能だという。成長を早めて収穫量を増やすことや一般生菌数が少ない閉鎖空間で無農薬栽培することができると、参加した会員など10人は先進的技術に驚きの連続だった。

難しい作業は機械が、簡単な作業は人間が行うことから、障がい者雇用にも対応できる。深刻な担い手不足の解消につながることも期待される。

## 兵庫県農業会議が研究交流会

講演する荒木会長



### 「現場に出て、農家の声聴こう」

#### 農業委員会の理解深め

【兵庫】県農業会議(荒木一聡会長)は2月26日、神戸市で「地域と共に歩む農業・農村を考える研究交流会」を開き、同会議の荒木会長が講演した。研究交流会は、農業団体や市町職員を対象として本年度から実施しており、今回で4回目。

荒木会長は「県の農業・農村と農業委員会」をテーマに、県の成り立ちと農業の概要からひもとき、農業委員会制度の歴史と概要、農業と農業委員会の役割を説明。「現場に出て、農家の声を聴いてほしい」と職員へ期待を込めた。

また、一人で悩むこと

今年4月からは、小学生を対象に放課後の習い事として農業に触れられなく、研究交流会を通して「お互いに知り合い、気軽に相談できる関係を築いてほしい」と語った。

講演後にはJA兵庫中央会の大盛雅之営農支援部長が、JAと中央会の活動を紹介した。

参加者からは「第1回から参加しているが、貴重な学びの機会となっている」「農業委員会制度の歴史と役割を理解できた」などの声が寄せられた。

### 農地情報一元利用へ新規事業

#### かがわ未来共創アグリプロジェクト推進事業

【香川】県では、守るべき農地に農業の担い手を位置づけ、農地の遊休化を防止し次世代へつなげていくため、2026年度予算に「かがわ未来共創アグリプロジェクト推進事業」を措置した。事業では、市町農業委

また、地域での調整を円滑化する体制を支援するなどして関係機関・団体へ提供。内部情報として各機関が農地の結びつきや地域での話し合いなど、農地の利用調整での活用をめざす。

初年度の26年度は4市町でスタートし、3年かけて全県に展開する予定。



## 地方総合

## 各地の話題